

C-83 本学々生の日常着のデザインに関する考察(オ-報)スカートについて  
梅花短大 ○川端登子 森喜久江

目的 本学々生の日常着で一番多いのは、スカートとセーター又はアウスの組合せである。そこで、どのようなデザインのスカートが日常生活の中で機能的で、着ごちが良く、美的であるかを考察した。

方法 ①アンケート調査によるもの。各自の日常に着用しているスカートの種類、所有枚数。各自か一年生、二年生で製作したスカートの丈、デザインの調査。②着用実験によるもの。本学使用製図のセミタイトスカートをトワールで製作し日常の動作直立正常姿勢、前屈身、腰掛、正座、歩行、階段等を行ない運動量の変化を調べ、それをデザインに活用する方法を考察した。

結果 学生の所有数は平均1.6枚で種類は、セミタイトスカート、腰のあるスカート、巻スカート、フレアスカートの順で丈はミニかひざ丈より好まれている。しかしミニ丈は昨年製作よりも今年は平均48cm長くなり、流行を意識していることがわかった。着用実験では、階段、正座、腰掛等で裾幅に運動量となるデザインが必要なることがわかった。学生平均ミニ丈46cmで各動作平均が前スカートで17.3cm、後スカートで3.3cmの運動量が必要であり、膝中央丈で前スカートで15.5cm、後スカートで8.0cm必要であった。この分量をセミタイトスカートに腰、チャッカー、フレア等で入れると機能的であるが、前・後スカートのバランスが悪く、美的でない。前スカートの寸法に近い分量を後スカートに入れてデザインする必要はある。用尺の少ない布の場合には、前スカートのみに運動量を入れたデザインをある方が望ましい。